

救急専門医・麻酔科専門医後期臨床研修プログラム（麻酔科）

文責：篠原 一彰

1. プログラムの目的と特徴

- ① 外傷・熱傷・中毒、内科外科を問わずあらゆる疾患、とくに重症患者に対する初療とそれに続く麻酔・集中治療管理を安全に施行することができるようになる。
- ② ドクターカー・ドクターヘリにて現場に派遣されたときに、現場での限られた時間と医療資源の中で適切な判断と救命処置を施行できるようになる。
- ③ 外傷での緊急開腹術や、心臓血管外科における胸部大動脈解離の緊急手術など、定時麻酔だけでなく、緊急での大手術に対しても安全に麻酔管理を施行できるようになる。
- ④ 整形外科、消化器外科（肝臓、食道など）、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、脳神経外科 などの各科の麻酔を一人で安全に施行できるようになる。

最低でも上記4項目を4年以内に達成し、その後の進路に繋げる。

2. 取得できる専門医

プログラム3年目：麻酔科標榜医（全員取得可能）

5年目：麻酔科学会専門医

最短で上記年数で各資格を取得可（上記年数は申請年で記載）。

3. 専門医取得の要件

現時点では、来年度に後期研修プログラムを開始する者は、4年目に従来の救急科専門医も取得可能とされたので、5年目には救急と麻酔のダブル資格が取得できる可能性が高い。

4. プログラムの研修内容

当院の救命救急センターの後期研修について特色を以下に列記する。

i : ER 業務

- ・ 1～3次全ての救急車対応（年間約5500台、そのうち交通外傷が約1300台）
- ・ 院内急変時の対応
- ・ ドクターカー出動は300件/年以上
- ・ 希望者は福島医大で運用されているドクターヘリのフライトドクター研修も可能

ii : 集中治療業務

- 重症外傷、農薬・薬物中毒、熱傷、高・低体温症などあらゆる外因性疾患の ICU 管理はもちろんのこと、重症感染症などの内因性疾患の管理を行う。
- 内科系・外科系各科からの院内にて重症化した患者の対応。

iii : 麻酔業務

- 整形外科、消化器外科（肝臓、食道など）、呼吸器外科、心臓血管外科）、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、形成外科、小児外科、泌尿器科、産婦人科、脳神経外科など年間約 6000 件の手術を管理する。また、年間 900 件にも上る緊急手術に対応する。

iv : 各科連携

- 日常的に手術の麻酔を通して外科系各科と一緒に仕事をしており、また、内科系各科についても、病棟急変や ICU での重症管理、呼吸器管理などにおいて協力して治療にあたることも多い。そのため、救急診療の現場においても各科との連携は非常にスムーズである。

v : 院内外留学システム

- 各レジデントの将来の展望に応じて、各科ローテーションも可能。
具体例①：北米型 ER physician や総合診療内科医を目指すレジデントは、内科や消化器内科、呼吸器内科など各科ローテーションなど。
具体例②：外傷外科医を目指しての外科研修（専門医取得は本人の希望次第）
具体例③：I V R 研修（約 3 件/週）
- 各科からの短期・長期ローテーションも随時受け入れ中。

vi : Off the Job Training

- おおむね当初の 2 年で救急・集中治療のゴールドスタンダード（AHA:BLS/ACLS/PALS, JPTEC, JATEC, ALSO, FCCS など）を受講・体得し、後半の 2 年でそれらのインストラクターを目指すことを最大限応援する。なお、受講には病院の出張費の範囲内で病院からの金銭的援助もある（これは全国的に珍しい）。BLS, JPTEC については院内でも正式コースを開催しており、受講も指導も容易な環境にある。

vii：その他

- ・ 出産休暇はもちろんのこと、育児休暇も取得可能（男女問わず）
6年目男性医師の育児休暇取得実績あり。
- ・ 事前申請にて調整の上、勉強会・講習会・学会参加を積極的に応援。
初期・後期研修に関わらず希望に対応。
- ・ 職場復帰にも積極的に応援。
10年以上仕事から離れていた女性医師の麻酔科医としての復帰実績あり。
- ・ 麻酔科のみの研修も可。
- ・ パートタイム研修も可。

5. 指導医・専門医・認定医取得医師名

篠原一彰（日本救急医学会指導医、日本麻酔科学会指導医・標榜医）

熊田芳文（日本麻酔科学会指導医・標榜医）

横山秀之（日本麻酔科学会指導医・標榜医）

石田時也（日本麻酔科学会専門医・標榜医、日本救急医学会専門医）

6. メッセージ

救急医＝麻酔科医であることが最大の特色である。そのため ABC の評価、治療が得意である。麻酔の手技により全身管理の基本が学べるため、あらゆる疾患・外傷の全身管理にも対応可能となる。約2年であらゆる症例の管理をひととおり経験し、4年後には一人で自信を持って管理することが可能になる。当院で4年間の後期研修を行えば、麻酔科医としても、救急医としても、集中治療医としても、一通りの診療を自信を持って行うことができるようになると確信する。